

Q2 どのような神様が集まるのですか。
A くわしくはわかりませんが、基本的にはQ4で紹介する留守神以外の神様はすべて集まると考えられています。集まってくる神様としては産土神、鎮守の神、龍神、天神、山の神、大黒などがあげられます。

Q1 日本中の神様が出雲に集まってくるのですか。
A 伝承が多く残されている所、あまり残されていない所などの違いはありますが、北海道や南西諸島を除くほとんど全国から、神様は集まっています。



日本に住む多くの神々は、旧暦十月(神無月)になると、島根県にある朝山神社(出雲市)・神魂神社(松江市)・出雲大社(簸川郡大社町)・佐太神社(八束郡鹿島町)・万九千神社(簸川郡斐川町)・多賀神社(松江市)などに集まります。それぞれの神社では、神を送迎するため、さまざまな神事が行われます。これを神在祭と言います。ここでは神在祭について、田んぼからみなさんが不思議に思っている点を説明しましょう。

神々が集う

出雲特有の伝承―神在月/神在祭



佐太神社本殿(鹿島町佐陀宮内)県指定文化財



神魂神社本殿(松江市大庭町)国宝



真名井神社本殿(松江市山代町)県指定文化財



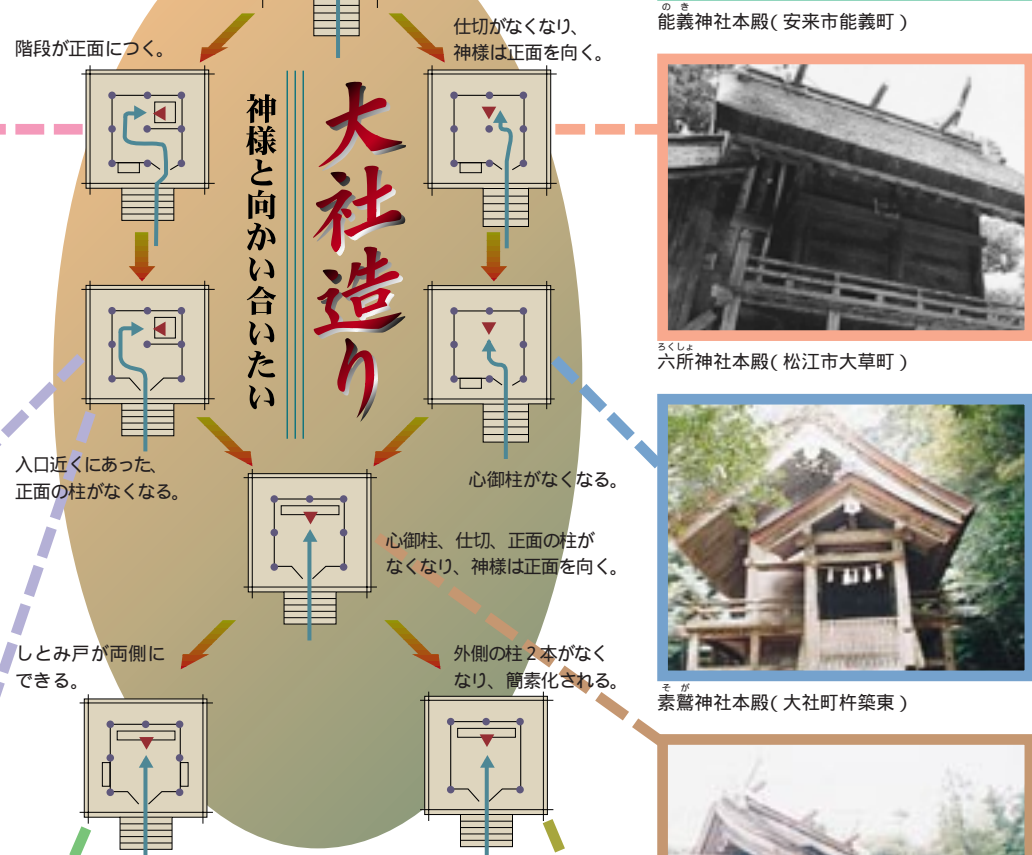
能義神社本殿(安来市能義町)



須佐神社本殿(佐田町宮内)

中心に心御柱がある。心御柱と側柱との間に仕切りがあり、この仕切の奥に神様がいます。

ただし、神様は正面ではなく、横を向いている。階段は正面についていない。



島根県の神社と違って誰もがすぐ思い浮かべるのは、やはり出雲大社でしょう。出雲大社の建築様式はもろろん大社造りですが、大社造りは出雲大社だけでなく、さまざまな神社で用いられています。したがって、この様式を「出雲造り」とも言います。

この大社造りは、時代の中で数々の変遷をたどっています。この変化をあらわしたのが上の図です。大社造りは私たちが神様とより向かい合えるようにするため、だんだん変化してきたものであることがよくわかります。

あなたの家の近くにある神社も、大社造りかもしれませんよ。ちょっと見に行ってみませんか。

(このページは、川上貢氏の『島根県の近世社寺建築』を参考に構成しました。)



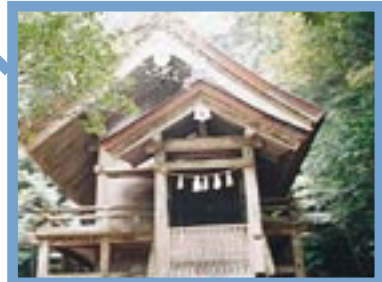
八重垣神社本殿(松江市佐草町)



六所神社本殿(松江市大草町)



命主社本殿(大社町杵築東)



素鷲神社本殿(大社町杵築東)



美保神社本殿(美保町美保)県指定文化財



許曾志神社本殿(松江市古曾志町)



玉作湯神社本殿(玉湯町玉造)



多倍神社本殿(佐田町反辺)



神送り神事(万九千神社)11月26日

Q4 出雲に来られない神様もいるのですか。
A 場所によって異なりますが、龍神、金比羅、恵比寿、大黒、山の神などは来ない場合があります。この神様は留守神と呼ばれています。



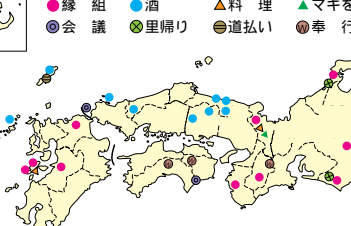
Q6 出雲にも神在月に関する伝承はあるのですか。
A 「カラサネ神等去出」の夜(神様が出雲から去っていく夜)には外便所に行くとか、外に出てはいけないなど言われています。また、戸口に飯や小豆粥をしゃもじで塗るといつとも行われていたようです。福をいたくためでしょうが、それとも遠路旅する神様への供え物だったのでしょうか。



神送り神事(佐太神社)11月25日



神送り神事(出雲大社)10月10日



Q3 神様は出雲に集まって何をしているのですか。
A 伝承によれば、氏子の縁組の相談がおも目的のようですが、ほかに酒作り(天神が作る)が多いや料理のため、また出雲に里帰りや奉公に行くためという場合もあります。



Q5 なぜ留守をする神様がいますか。
A すこし前まで、日本人はいろいろな面で神様を頼りにしながら生活していました。だから神様が約一カ月も村や家にはいないというのは、とても不安だったので。そこで留守神が考えられたのです。人びとは神様が留守をする言い訳を、いろいろと考え出しました。それを左にいくつか紹介しましょう。